



# 国見っ子

令和3年度 第3号  
国見町立国見小学校だより  
令和3年 5月18日  
発行者 校長 本多 康弘

## 子ども達の学びを支えていただいています

感染症拡大により、余儀なく社会的な行動が制限されています。学校でも、子ども達、保護者の皆様、そして教職員も楽しみにしていた運動会、さらには日々の学習活動も同様に延期や中止をせざるを得ない状況です。

しかしながら、子ども達の学びを続けようと、地域の皆様にご協力いただきながら学習活動継続のための取り組みを行っています。

5年生で実施予定だった田植えは、中止となりました。そこで、昨年同様に小坂アグリ株式会社様のご協力により田植えをしていただく予定です。加えて、先週にはバケツ稲も寄贈いただきました。また、2年生のサツマイモ植えについても、子ども達の作業は行わず、学習ボランティアの松浦金造様にご協力いただきました。田んぼや畑で注意してみる機会のない花や穂など成長過程を観察・体験することで、農家の方々の苦労を肌で感じたり、農業の仕組みを知ったりすることができます。秋頃には、収穫の体験を行うことができるよう願っています。

加えて、プールについても先生方や町教育委員会の方々にお手伝いいただきながら、準備を進めているところです。

学びの継続のために多くの方々にご尽力をいただいています。ありがとうございます。



昇降口前のバケツ稲



サツマイモの植え付け



プールの準備

先日、医療関係の方のお話を聞く機会がありました。

その中で、「怖いのは、変異株よりも『慣れ』だ」という言葉がありました。どんなことにも必ずリスクがあり、大切なことは「きちんと対策をとること」で、安全性を高めていくことができるというものでした。これまでのとおり、コロナ対策としての「手洗いや消毒、マスク、常時換気、密を避ける」ことです。医療の場でも、教育の場でも、日常生活でも、このことをしっかり行うことが大切だということ、改めて感じました。

週末、福島県では非常事態宣言が発出されました。感染リスクが高いものとして、マスクを外した会話や接触、飲食、感染拡大地域などへの往来、県外から帰省した家族や親戚との接触などがあげられています。

このことにより、さらに心配や不安が高まる場所かもしれません。マスク姿の日常で、「コロナ疲れ」という言葉もよく耳にするようになりました。上記医療関係の方は、加えて「不調のサインに気付くことが大切」だとも話されていました。子どもが心や体が不調になったり、ストレスがたまってきたりすると、不眠や食欲がない、甘える、攻撃的になるなどのサインが現れるといいます。そういった子どものサインを見逃さないようにしたいものです。

ステイホームを子どもとの貴重な時間ととらえて、子どもの話を最後まで聞き、その心情を受容しながら心と体をほぐす時間となり、より家庭生活が充実するよう保護者の皆様のご理解とご協力をお願いします。

## 大変お世話になりました～菅谷正美さん～

## よろしくおねがいします～鈴木一郎さん～

4月から用務員として、学校用務全般をお願いしていた菅谷正美さんですが、町の人事異動により県北中に異動となりました。短い期間でしたが、学校環境整備に尽力していただきました。

また、県北中より鈴木一郎さんが今週より用務を担当することになりました。今後もよろしくお祈りします。